

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	新しい理念を作り新年度をスタートさせるが、前回の理念よりシンプルになっている分、職員間で解釈のズレが生じる恐れがある。	新しい理念が入居者個人の生活の中で生かされるよう、また、職員間で共有できるように更に具体化していく。	22年度の学習会の中で、理念が全員に浸透していくように話し合う。また、理念の項目ごとに、個々の入居者に適したケアを具体化する。	12ヶ月
2	2	運営推進会議により、以前に比べると地域住民に事業所が知られるようにはなったが、日常的な近所付き合いという点では、十分とは言えない。	近所の方とのふれあう機会を増やし、少しずつでも関係づくりを行う。	項目番号5、49にも該当するが、最近は何回も減っていた日常的な散歩等を取り入れることで、近所の方とふれあい、馴染みの人や場所を徐々に作っていく。	12ヶ月
3	3	事業所として身体拘束をしないのは当たり前だが、オープン時と比べて職員の顔ぶれが変わっているため、全員が細かい所まで理解しているかどうか不安。重要な部分なので、定期的にしっかり学習しておく必要がある。	毎年、認知症の理解を深めるとともに、身体拘束をしないケアを考える時間を設け、分かっていたとしても反復して学習する。	22年度の学習会の中で、身体拘束について行う。以後も、定期的に学習会に取り入れる。	12ヶ月
4	26	介護計画作りにおいて、アセスメント、モニタリングへの取り組みは努力しているが、サービス担当者会議が満足にできていない。	工夫して、サービス担当者会議を行う。	スケジュールを勤務表にも入れながら調整していく。	12ヶ月

5	35	<p>現在行っている避難訓練は、入居者をいかに建物から早く外に出すかに重点を置いて、入居者が外に出た後のことは、あまり考えていない。認知症のため、一か所にじっとしてられない可能性を考えておく必要がある。</p>	<p>避難誘導後、入居者から目を離した際に行方不明になることを想定した対策を講じる。</p>	<p>夜間にも対応するよう蛍光塗料のタスキを購入し、それに事業所名、連絡先等を記入する。訓練ではタスキを入居者にかけて避難誘導する動作を加える。地域にもタスキのことを情報として伝える。</p>	6ヶ月
---	----	---	--	--	-----

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。